

説教

義認：終末は救済である

OIC の皆さんお早うございます。

信仰によって義とされたクリスチャンのための神のご計画における黙示録、あるいは終わりの時について、今日強調するために重要な節をいくつか重ね合わせました！使徒パウロは、過去、現在、未来の出来事に対する神の行動、あるいは神学を知るといふ壮大な説明するために、神の創造物すべてを巻き込みました。義認の主要テーマ：神の御子の犠牲による**人間の罪の問題**に対する神の解決策は、今や動物界にも及ぶ罪の問題としても示されています。

(ローマ 8 章 19-21 節)：「19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。」

天地創造、動物と植物における問題は、人間が作ったものからではなく、人間の罪から来ます。

アダムとエバがエデンの園で犯した罪は、すべての生き物に死をもたらしました。しかし、被造物は神の子らの現れを待ち望んでいることに注意を払ってください。それは、神がすべてのクリスチャンを神の子として、神の栄光を現すのを待っています。私たちは養子ですが、時が始まる前から、御子イエスと同じ栄光を持つことが定められています。先週述べたように、動物界は、彼らの周りやクリスチャンの中に神の臨在を感じ取っています。これがどれほど意識的なものかは神のみぞ知ることですが、ペットを飼っている新しく生まれ変わった信者にとっては、これは現実であり、しばしば明白なことです。

動物の行為からではなく、人間によって死が入って来たことを忘れてはいけません。(ローマ 5 章

12 節)：「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、—それというのも全人類が罪を犯したからです。」

(ローマ 5 章 19 節) ここで、私はある疑問を強調したいです。：「すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。」

もし、自然を含む被造物が神の子たちの現れを待ち望んでいるなら、なぜ私たちは、それを待ち望むことができないのでしょうか？

(8 章 20 節)：「被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方による」

神は正義の心を痛めつけながら、愛する被造物にこのような無益なことをされたのです！ 私たちは、美しい日本のスズメが互いに争い、ワシやカラスのような肉食動物がこれらの小さな鳥を捕食するのを目にします。神が被造物を虚無に服されるということは、一人の人間の罪によって人間と動物に死が訪れたという聖書の真理を強調しています。しかし、人間と自然には、イエスと栄光を受けたクリスチャンたちが地上に戻ってきて、その後、神の子どもたちの栄光ある自由の中に入るとき、すべての生き物の空しさが終わるという希望や約束があります。自然の空しさは、救い主のいない人間の空しさを明らかに言い表しています。ソロモンは聖書の**伝道者の書 2 章 17 節**で、この有名な言葉を述べています。：「私は生きていることを憎んだ。日の下で行なわれるわざは、私にとってはわざわいだ。すべてはむなしく、風を追うようなものだから。」救い主のいない、しかし最も賢明で力強い人生が空しいことを示すために、神によって、「伝道者の書」の中でソロモンの知恵として書かれました。

教訓 #1

人間と動物にとっての約束や希望は、神の栄光を地上にもたらす神の子の中にあります。クリスチャンだけが今、このことを**頭金を支払った**として、それを味わっています。動物たちは今、特に私たちの存在からこの来るべき栄光を感じ取り、他の被造物もまたそれを明らかにしています。神は、イエスが栄光のうちに再臨された後、すべての被造物に完全に回復することを約束されました。

(ローマ 8 章 22-23 節)を読みましょう：「私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。**23** そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」。

パウロは今、天地創造から離れて、生活の中で、クリスチャンが御霊に導かれる経験に焦点を当てています。

(ローマ 8 章 23 節)は、：「被造物全体がうめき、産みの苦しみを味わっているという」黙示録的な、あるいは終末の時の言及です。イエスを信じる私たちも、うめき声をあげるべきです。私たちがうめくのは、イエスにあって満足のない生活からではありません。ただ、聖霊がすべてのク

リスチャンに、「最高のものはまだ来ていない」ということを明らかにする味、あるいは霊的な飲み物を与えているからにほかなりません。

(1 テモテ 6 章 6 節) : 「しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。」

終末論的な...(マルコ 13 章 3-8 節) : 「**3** イエスがオリーブ山で宮に向かってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに質問した。**4** 「お話しください。いつ、そういうことが起こるのでしょうか。また、それがみな実現するようなときには、どんな前兆があるのでしょうか。」**5** そこで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。**6** わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそそれだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。**7** また、戦争のことや戦争のうわさを聞いても、あわててはいけません。それは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。**8** 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、ききんも起こるはずだからです。これらのことは、産みの苦しみの初めです。」

これらのことは、産みの苦しみの始まりに過ぎません。

(ローマ 8 章 23 節) にあるように、私たちクリスチャンの産みの苦しみは、子としての養子縁組、私たちの体 {新しく復活した栄光の体} の贖いを待ち望んでいます。

使徒パウロは、復活の主との個人的な会話は言うまでもなく、イエスの教えのすべてをよく知っていました。繰り返しますが、神の最高の被造物である人類は、時が迫っているという特別な知らせを受けているのです。自然のうめき声は明らかに、動物王国の一部の感覚だけでなく、地球そのものの活動、そしてもちろん預言者たち、特に大預言者イエスに関係しています。地震や、人間が単に「自然現象」と誤って呼ぶものは、地球上のいたるところで、より深刻に、より頻繁に起こり続けています。産みの苦しみの後に赤ん坊が生まれるように、苦しみの後に、地球に何が生まれるのでしょうか？ 栄光を受けたイエスと栄光を受けた聖徒たちの出現に勝るものはありません。栄光を受けた聖徒たち！.....それが私たち OIC であり、他の何十億もの人々です！ 映画やスポーツのドラマチックな結末に興奮する私たち： あなたはただ見ているのではなく、アクションの中心にいます。

(ローマ 8 章 23 節) : 「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。」

アンプリファイド訳では、「御霊の最初の実を、来るべき祝福の喜びのしるしと表現しています。」

私たちクリスチャンは、御霊の最初の実を持っています。(ローマ 8 章 16 節) にあるように、私たちは生まれ変わったときから、来るべき時代、私たちの内にある聖霊の栄光を味わっています。「私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。」 新しいクリスチャンが御霊によってこの証しを感じ取ることは、クリスチャンに

よってより顕著に異なるかもしれないことに注意してください。しかし、神は御言葉の中でそれを約束されているのですから、いずれはそうなるのです。

私たちクリスチャンは、生まれ変わったとき、あるいはその後に、**私は神の子**であるという確信があったことを決して忘れてはならないし、神に思い出さう求めることをやめてはいけません。その聖霊体験の永続的な結果がいつの間にか薄れてしまったとしても、絶望してはいけません。神があなたを新たにし、励ましてくださるために、あなたは父の家、イエスの教会にいるのです。詩篇の作者は、そのように嘆願しました。

(詩篇 85 篇 6 節) : 「あなたは、私たちが再び生かされないのですか。あなたの民があなたによって喜ぶために。」そして (詩篇 119 篇 37 節) : 「むなしいものを見ないように私の目をそらせ、あなたの道に私を生かしてください。」アンプリファイド・バイブル訳 (AMP) は、虚栄心を「優先順位を自分とし、気をそらす世俗的で無意味なものすべて」と定義しています。イエスだけでなく、神が時の終わりに私たちのために約束してくださった栄光の未来から目を離さないでいるなら、日本のような、この世の忙しい場所で無意味なことに気を取られることはあまりないでしょう。

そして (預言者イザヤ 57 章 15 節) : 「いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名を聖ととなえられる方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、心砕かれて、へりくだった人とともに住む。へりくだった人の霊を生かし、砕かれた人の心を生かすためである。」

イエスは、今日ここにいる神の子どもたちの中で、神の栄光で満たされた未来を待ち望むことができない自分を発見している人たちを、よみがえらせたいと願っておられると、私は信じています。悔い改めた心で神に祈ってください。主はあなたの内におられる御霊によって、その栄光の未来への信仰を高めてくださるでしょう。

リフトサインの OIC の祈りと私は、イエスの御手からのこの刷新を求める人なら誰でも、いつでも一緒に祈ることができます。そのとき、その栄光ある子としての養子縁組を待ち望んでいることに気づくでしょう。

(ローマ 8 章 24 - 25 節)を読みましょう : 「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望みましょう。25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」

聖書でいう希望とは、神とその御言葉を信じることによって、神が将来なさることを信じることです。 阪神タイガースの優勝や、仕事が休みの日の好天を願うような「希望的観測」ではありません。 それは、「必ずそうなる...神がそう言われたのだ!」という「確信」です。

御霊に導かれて歩む体験的クリスチャンの生活は、聖霊による証しを私たちの人生にもたらしめます。それは、信仰の必要性を排除するのではなく、励ますためです。神の御霊によるこれらの証しには、しばしば感情が含まれます。 神は御自分の子供たちに良い感情も悪い感情も与えることができます。 神には感情（良い感情も悪い感情も）があり、私たちは神に似せて造られていることを忘れてはいけません。 クリスチャンの中には、感情を重要視することを恐れる人もいます。しかし、神の子供たちに対する神の賢明な計画の一部として、神が与える感情は重要なものです。

クリスチャンであれノンクリスチャンであれ、神や人生の出来事に関係なく、自分の感情に頼りすぎる人がいます。 全知全能の神は、私たちが自分自身を知る以上に、私たちのことを知っておられます。 神からの強い感情の経験について、それは常に神の愛の確認です。

私たち人間は、他人を良い気分させるのが好きです。なぜ神はそうしないのでしょうか。いいえ、聖書は、神がそのようになさることを確証しています。（詩篇 34 篇 8 節）：「主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。幸いなことよ。彼に身を避ける者は。」

また、神の霊からの感情は、**神を見る**こととは違うということも重要である。

（ローマ 8 章 24 - 24 節）にあるように：「私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。**25** もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」

「キリストにおける私たちの勝利」とは、1995 年版のニュー・アメリカン・スタンダードにある聖書箇所の見出しです：「**26** 同じように、御霊も私たちの弱さを助けてくださる。私たちは、どう祈ればよいかわからないが、御霊ご自身が、言葉にできないほどの深いうめきをもって、私たちのためにとりなしてくださるからである；」

この見出しは正しく、適切です。 というのも、ここ数週間見ているローマ書で強調されているように、神の頭である聖霊は第三の位格で、キリストにおける私たちの内なる源であり、勝利を保証してくださるからです。 クリスチャンが成長するにつれて、神はクリスチャンが自分の知性や

理解する能力を超えた事柄について、聖霊の執り成しを信頼するようになるようにと意図されています。：「わたしの幼な子たちよ、わたしがこれらのことをあなたがたに書いているのは、あなたがたに罪を犯させないためである。もしだれかが罪を犯すなら、わたしたちには父との**弁護者**、すなわち義人イエス・キリストがいます。私たちが主の戒めを守るなら、私たちは主を知るようになったのです。」

(1 ヨハネ 2章1-2節)にあるように：「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で**弁護**してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。**2**この方こそ、私たちの罪のための、—私たちの罪だけでなく全世界のための、—なだめの供え物なのです。」。

(ヨハネ 14章26節)：「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

定義(MOUNCE/ギリシア語辞書):**paraclete**-他の人を助けるために召された者、または送られた者；**弁護者**、他の人の大義を弁明する者、**1 ヨハネ 2:1**；様々な有益な奉仕をするために存在する者、したがって、その影響力と働きは、キリストご自身の出発を補うものであった。

それゆえ、イエスの目に見える肉体的存在は、目に見えないが肉体的存在である聖霊に取って代わられました。聖霊は、彼らの助け手として、その臨在をクリスチャンに知らせたいと願っておられます。イエスは今も、天における私たちの特別な**弁護者**です。イエスは私たちと同じ人間となられたのですから。しかし、聖霊は今地上におられます。そして、神は唯一の神であり、私たちが何かを正確に伝えようとして、自分一人奮闘するのは異なり、神の三位一体はすべて一体としていつも同時に一致して働いておられます。

ですから (ローマ 8章26節)：「…御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。」

つまり、聖霊が私たちのために神に祈ります！しかし 私たちはどうして失敗するのでしょうか？

(ローマ 8章27) この釈義を確認しましょう。つまり、神格における一致の真の意味を引き出します。それ故、パウロは書いています：「**27** 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。」神はクリスチャンの心を探られます。

私たちは、神が時として人の考えや心を知っておられることを明らかにしておられることを知っています。イエスは復活後、初めて使徒たちに姿を現されたとき、こう語られました。（ルカ 24 章 37-39 節）：「彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。**38** 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。**39** わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」しかし、内在する神の御霊は、私たちの助け手として、また天の神との繋がり手として、神の御心に従って私たち聖徒のために執り成し、常に任務に当たっておられます。

私たちは（ローマ 8 章 28 節）から、私たちが善い行いをするために与えられる神の力について、賛美の歌を歌います。それは良いことですが、他の聖句と同じように、それは前の節からつながる、あるいは流れ出ることを意味しています。従って（27 節）の神の御心に従うとは、（ローマ 8 章 28 節）のためのはかり縄、または指導原則です。：「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

神はその全能の力を私たちの人生に適用して、万事が益となるように働かせてくださいます。パウロの言わんとする事、そして神の意図されること、28 節の意味を解釈し、理解するために、前の節の御霊による執り成しや神のみこころによる執り成しを捨ててはいけません。

私たちは、私たちの人生において困難なこと、落胆させられること、あるいは悪霊の働きがあった後、神を愛する者たちのために、何が私たち個人にとって良い出来事となるかを知っていると思いたいのです。私たちの人生においてではなく、「イエスと共に御霊の中で歩むこと」においてと、言った方がいいでしょう。聖書は、キリストの目的のためには、私たちの命は消えゆくものであると明言しています。

召使いは主人より偉いのでしょうか？（ヨハネ 15 章 20 節）：「しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」このように、神はしばしば私たちの召命に良い結果をもたらすように行動されます。

神は、私たちのために執り成してくださる内住の御霊によって、私たちが良しと見えたり感じたりすることは、永遠から見れば、また、私たちの「召命」を果たすための現在の歩みに照らしても、私たちにとって良いものではないことを知っておられます。

召命！聖書の中で、神の子どもたちに対する神の心の中で、なんと力強い言葉でしょうか。ローマ人への手紙のこれらの箇所を正しく理解するためには、クリスチャンの「高い召し」、あるいは

は「天の召し」に照らして、どのように理解しなければならないかを明らかにしようと思います。来週は、(ローマ 29-30 章) から、永遠という観点からクリスチャンの「召命」についてさらに焦点を当てる予定です。

(ヘブル 3 章 1 節) : 「そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。」

ローマ人への手紙のこの特別な部分を引き出すために、私はピリピ人への手紙の中から、パウロが自分の**召命**について多くの感情と哀愁を込めて描写した 2 つの節を選びました。

私は J.B.フィリップスの翻訳聖書を選びました : 「しかし兄弟たちよ、私は自分が霊的に "到着" したとは思っていないし、すでに完全であるとも思っていない。しかし私は、キリストが私をつかんだその目的を、ますますしっかりとつかみながら進み続ける。兄弟たちよ、私は今でもそれを完全に把握したとは思っていません。しかし、私はこのことに集中している : 私は過去を捨て去り、その先にあるどんなものにも手を広げて、目標に向かってまっすぐに進みます。 — 私の報酬は、キリストにあって神に召された栄誉である。」

哀感と感情を持った使徒がいたとすれば、それは使徒パウロです。キリストにあって神に召された栄誉を考えると、彼の感情は驚のように舞い上がりました。

召されるという言葉の重みを理解することは重要です (ローマ 8 章 28 節)。アンプリファイド版 (AMPC) は、私が目指しているいくつかのポイントやコンセプトを、本文の中に捉えています。(28 節 / AMPC) : 「私たちは、神を愛し、神の計画と目的に従って召された人々にとって、すべてのことが共に働き、益となることを確信し、また知っている。」

1) 彼らの労苦のパートナー — 私たちは、信者が肉に従うのではなく、御霊に従って生きる正しい選択をした後、御霊が彼を栄光へと導くことができることを見てきました。この栄光はすでにあり、しかし、まだ完全ではありません。すでにあるものは、御霊の力によって御霊の実を結び、イエスの御名を証しします。御霊に導かれた人生には、神の祝福と神の目的があります。

2) 善い計画への適合 — 聖霊は、聖霊に導かれたクリスチャンに摂理にかなった出来事や経験を起こされます。注 : すべてのクリスチャンは聖霊を持っています。しかし、神に導かれることを許し、主に神に求めるクリスチャンだけが、神の国の拡大や成長に影響を与える摂理を経験するのです。イエスは、悪魔がこの成長を止めることはできないと約束されました (マタイ 16 章 18 節 b) : 「... あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」私たちクリスチャンの肉的な欲望や罪深い欲望の力が、イエスの教会の建設をしばしば打ち負かします。しかし、その必要はありません。私たちが見たように、助け主である聖霊が、私たちの古い性質に勝利を与えてくださるのです。

3) 主の計画と目的に従って召された – **召された**とは、神がクリスチャンの人生に積極的に介入し、個人的な**召命**を生み出すことです。それは他の人と似ているように見えるかもしれませんが、そのクリスチャンと主イエスにとっては全くユニークなものです。

4) 神を愛する人々に、またその人々のために – 私はこれを別の順番に並べました。原語のギリシア語は、文法の構造によってではなく、順序によって強調する意味を作っていました。

Praise Musicのような感情的に神を愛することは神的なことです、「善のために」という約束は、イエスとの真剣な関係において感情的以上の愛を必要とします。イエスに従う心という修飾語もあります。イエスは（ヨハネ 14.15）において、簡単にこう述べています：「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」

私は（ローマ 7 章）にある、無計画な罪と意志的な罪に関する教えを捨ててはおりません。イエスは、ご自分の戒めを守るために全力を尽くすことを望む心を見ておられると信じています。信者が成長し、聖霊がイエスとのより親密な歩みを引き起こすようになると、私たちの古い本性に逆らって良い仕事ができないことは、それほど頻繁ではなくなります。

教訓 #2

（ローマ 8 章 28 節）には、神がすべてのことを働かせて益としてくださるというクリスチャンの関係が含まれています。神が「善」と呼ぶものは、私たちが「善」と呼んだり感じたりするものとは一致しないかもしれないことを明確に示す私の釈義を付け加えなければなりません。神の国にとって良かったのは、御子の死でした。イエスに従う僕である私たちは、地上の出来事に関する私たちの善が神の国の善に反することを求めてはいけません。

天地創造の空しさ、戦争や戦争の噂、飢饉、さらには偽キリストのような地上の出来事は、時の終わりに、神の栄光を経験する確かな希望を持つクリスチャンたちの心に喜びを引き起こす聖霊によって、消えていきます。神の御霊は、神の子たちのための黙示録的栄光の前に、すでにすべてのクリスチャンに同じ栄光を味わわせてくださいます。神はまた、御霊に導かれてイエスに会うことだけに集中して、毎日を生きる喜びと自信を失ったクリスチャンに、この希望を復活させ、回復させてくださるのです。

神は常に、イエスに心から従うことを約束した神の子供達が経験した報われない行為に、多く恵みを加えられます。神の子として、すべての悩みや試練は、イエスと共にある永遠という観点から、私たちの人生におけるすべてのことが私たちの益となるように、神が本当に世界に成してくださることを信じる私たちの元にやってきます。これは、終末的な生き方です..... **ここから永遠まで、イエスとともに、イエスのために！**

祈りましょう。

REFERENCES

{ } - Pastor Bruce's added notes for clarity わかりやすくするためにブルース牧師が付け加えた注釈

AMPC - Amplified Bible, Classic Edition

MOUNCE – both Translation, Copyright ©2011 by William D. Mounce.

& *Mounce Concise Greek-English Dictionary of the New*

Testament edited by William D. Mounce. /[Free Greek dictionary](#), BillMounce.com.

NASB - New American Standard – 1995 Edition

NLT - Holy Bible, New Living Translation, copyright © 1996, 2004, 2015 by Tyndale House

Foundation. Used by permission of [Tyndale House Publishers, Inc.](#), Carol Stream, Illinois 60188.

All rights reserved.